

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三一五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
http://www.neues-asahi.jp

四月から約三カ月間、新型コロナウイルス感染拡大や緊急事態宣言でノイエス朝日は休廊していました。

「第4回楳円会」でマスクの使用やアルコール消毒、ソーシャルディスタンスを守りながらの始動です。

この三カ月間、ノイエスが休廊でも、お預かりしている作家の原稿読みや「ふる本」の整理をしていました。

ノイエスの「ふる本」コーナーには興味深い書籍や雑誌が多数並んでいて、ページを開くと作家の肉声が活字を通して呼吸をしているように飛び込んできます。文章の流れに心震わせ、時を超えて身近に作家の存在が感じられます。ページをめくる時の紙質、色、匂いは、当時の空気感まで届きます。

ご縁があつてお会いした作家の著作があると懐かしい人に久しぶりに会つたような錯覚をおこし、また目次の中にその作家の名前があると拾い読みをして知らなかった作家の別の面を見る楽しさも味わえます。ふる本の魅力かもしれません。

機会をみて「ノイエスふる本市」を開催いたしますので、新しい出会いを「ふる本」の中から見つけ出してください。

高崎市美術館やギャラリーで開催されている展覧会を見た帰りに食事で寄る店の駐車場にプレハブの小屋があつて何かな?と覗いてみると何とパン屋さんでした。私の好きなハード系の焼き上がりのパンが種類も多く焼きあがつていたので買って帰りました。

その後も何度か立ち寄りしました。しばらくしたら、プレハブ小屋の前は行列となつていて、これはいつたいどうしたのだろうと・・・。

先日、テレビでフランスにて開催される「第7回モンディアル・デュ・パン」という世界大会で優勝した人がやっていたパン屋さんであることがわかりました。数回でしたが、そんな情熱をもったパン職人の作ったパンを口にできたのは幸せです。

自分でも素人なりにパンを時々焼いたりしますが、伊勢崎のわかりづらい所にあるドイツパンの店や桐生や前橋、高崎のパン屋さんにも行ったりします。それにチーズ専門店も・・・。少し食生活に異文化を取り入れるのもステイホームの楽しみです。

この期間に断捨離で身のまわりのいろいろな処分をした人も多いと思います。が、料理の腕をあげた人、梅仕事をした人と一歩でも二歩でもコロナ感染対策をしながら前へすすみましょう。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

白川昌生・しらかわともこ展

〈企画〉

会期 七月十一日(土)～十九日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

白川智子さんが二〇一三年十二月二十一日に亡くなって早いもので六年が過ぎた。白川昌生氏がその後、Prattl & 3と出版された智子さんの作品集に、はじめて作品を発表した時のことが書いてある。

一九七七年十一月二十五日に東京の江古田にあつたギャラリーメールドでの「Runner of Process 展」がはじめてであつたと思う。壁にとりつけられた無数のちり紙には、「わたしは小川智子です」とタイプ打ちされており、観客はこれを自由に手に取る事が許されている。この自己放棄ともみられる展示が彼女の自己主張とも重なっていくところに、ちり紙という消費物を活用している面白さがあり、会場の中でも注目を集めた作品であつた。

一九七八年一月にも、ギャラリーメールドでパフォーマンスを彼女はおこなつた。六月の片瀬海岸での「自然との対話」という波打ち際で小麦粉を振りまいていく、そのシンプルでプリミティブな感覚をストレートに打ち出した姿勢が、その後の彼女の作品制作の中でも貫かれた大きな柱となつていった。

作家としての仕事を知ることになるのは、智子さんが亡くなって、白川氏の自宅で山のような作品群を見たのが初めてだつた。フランスで描いた新緑の美しい風景のなかにある小屋は、智子さんの純粋で透明な心が見られた。

また、白川氏が言うように感情をストレートに出してくる作品には単純な色の中や、線に心に響いてくるものがあつた。言葉は少なかつたけれども作品からは詩心が伝わってきた。そして何とも言えない魅力があつた。私の自宅には智子さんの「絵日記」という作品がある。太陽が十五、そこには「今日は太陽があります」という日記が繰り返し書かれている。

毎日の生活に智子さんの描いた太陽が背中を押してくれる。

白川昌生氏の作品については、ノイエスの会場でゆっくり鑑賞してください。参考資料も置いてありますので併せてご覧ください。お待ちしております。

第8回 群馬工芸美術会ノイエス展

〈企画〉

会期 七月二十一日(火)～二十九日(水)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

群馬工芸美術会五月展として開催してきた展覧会ですが、新型コロナウイルス感染拡大と緊急事態宣言により延期となり五月展から「群馬工芸美術会ノイエス展」として開催いたします。十九名による新作をお楽しみください。

ご来廊の折には、マスクの着用をお願いいたします。

斉藤健司作品展

—75年目の夏—

〈企画〉

会期 八月一日(土)～九日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

* * *

コロナ渦の中の作家たち展

会期 八月十五日(土)～十九日(水)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

* * *

久保茂雄彫刻展

素材を生かす

〈企画〉

会期 八月二十二日(土)～二十八日(金)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2